

ヤタガラスと中村覚之助

那智勝浦町 講演会で日本サッカーのシンボルも



日本ヤタガラス協会（山本殖生会長）は18日、那智勝浦町役場大会議室で講演会「ヤタガラスと中村覚之助をさぐる」を開催した。

八咫鳥のルーツについて話す山本殖生会長＝18日、那智勝浦町役場大会議室

日本ヤタガラス協会総会終了後に開かれ、約30人が参加。第1部は、同協会会長で国際熊野学会代表委員の山本さんが「八咫鳥のルーツを探る」と題して講演した。日本神話において、神武東征の際に熊野に上陸した神武天皇の下に遣わされ、大和国への進軍を導いたとされる熊野の神々の遣い「八咫鳥」についてスライドを用いて解説した。

山本さんは「八咫鳥は太陽信仰の象徴である三本足を持っており、『神の遣い』『導きの鳥』と古くから伝承されてきた」と説明。「熊野という地域の特異性が八咫鳥の宗教環境の土壌をつくった」と話し、熊野という超自然的な存在と八咫鳥が相互に影響し合っている可能性について言及した。



サッカーを広めた中村覚之助について話す中塚義実さん

カーの本を編集・著者・出版し、翌年には日本初のサッカーの対外試合を企画するなど幅広く活躍した。

その後、優秀な選手が選ばれた日本代表選手らが国際大会で成績を残していた。

中塚さんは「日本サッカー協会はサッカーを広めた中村が熊野出身であることにちなんで『三本足の八咫鳥』をシンボル

マークとして選びました」と説明した。

覚之助は、93年のJリーグ発足から現在のサッカー日本代表の活躍に至るまでのムーブメントをつくった陰の立役者と紹介した。2021年9月に那智勝浦町栄誉町民として顕彰されており、JR那智駅前顕彰碑や同町体育文化会館ロビー内の展示でその功績を記している。

「広角の池」にハス 鳥が運んで繁殖か



「広角の池」で広がるハス＝22日、新宮市新宮